

「変える」

東山中学校 一年 女子

私には困っていることがあります。それは今までたくさんの人権学習をしてきたのにきちんとした行動が取れないということなんです。

私は、何度か悲しい思いをしている人を見てきました。でも、その状況の中で、私は何もすることができませんでした。そのたびに、弱い自分が情けなくなりました。

私が実行したいと思っていること、それは、周りのどんな状況にも左右されず、どんな立場にあっても、正しいことと正しくないことをしっかりと見極め、それを言葉にしたり行動したりできる人間になることです。

しかし、なかなか実行できません。その実行できない理由は、何か？

私は、そこで一つの考えにたどり着きました。それは、私自身が「変える」ではなく、「変えたい」としか思っていないということ。「変える」と「変えたい」には、大きな違いがあります。当然、「変える」の方が、強い意志の力を含んでいます。

私は自分を変えます。小さなことから、必ず自分自身を変えていきます。そして、正しい行動が取れる人になります。



心が明るくなるよ

啓成小学校 二年

わたしは、毎日、二つのことをするおかげで、すっきりと明るい気持ちです。ごすことができます。

一つ目は、お母さんとするタッチです。

わたしは、お母さんに

「行ってきます。」

と言いながら、タッチをします。一年生のころからしています。毎朝ではありませんが、これをすると、

「よし。きょうもがんばるぞ。」

という気持ちになります。タッチをすると、心がパツと明るくなるし、すっきりするし、うれしくなります。きつとお母さんも、うれしいと思います。

二つ目は、あいさつです。

わたしが、毎朝とう校するとき、地いきの方が、

「おはようございます。」

とあいさつをしてくださいます。わたしも

「おはようございます。」

とあいさつします。

わたしは、地いきの方にあいさつをしてもらってうれしいし、お母さんとタッチをするときのように、心がパツと明るくなります。

わたしは、地いきの方のように、あい手より先に「おはようございます。」が言えて、人を明るい気持ちにできる人になりたいと思いました。

これからも、お母さんとのタッチと、出会った人とのあいさつをつづけていきます。

だれもが幸せを感じられる

社会の実現を目指して

中央隣保館館長 石脇 昭弘

啓成校区の皆様、はじめまして。

昨年四月より、前田憲二前館長の後任として中央隣保館でお世話になっております。

隣保館では、同和問題をはじめとしたさまざまな人権問題の一日も早い解決と、それによってもたらされるだれもが安心して安全に、自信を持って暮らすことのできる社会の実現をめざし、地域の皆様のご理解、ご協力を仰ぎながらいろいろな活動に取り組んでいます。その中の一つ「ワクワク人権講座」を、昨年は初めて研修会場として啓成公民館をお借りして開催し、たくさんの方々に参加して頂きました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

今後とも地域に開かれた隣保館、「行ってよかった」「また利用したい」と思っていただけの隣保館をめざし、職員一同力を合わせて頑張っていきたいと思っています。地域の皆様のお力添え、どうぞよろしく願います。

